

★ 氷川の総合開発計画

氷川総合開発計画は、不知火海に注ぐ氷川の上流、八代郡泉村下岳地内に高さ五三呎のダムをつくり、氷川の洪水を調節して流域の洪水被害の防除軽減をはかる一方、ダムにたまった水で農業水利や上水道の事業を実施し発電所を設けるなどして産業の発展をはかるうとするものであるが、あわせて氷川流域の道路の整備や観光開発も行なおうとするものである。県は、この氷川総合開発計画を県の主軸事業として推進してきたが関係町村でも、県が調査をはじめた直後から促進期成会を結成して、強力に推進運動の展開をはかったため、調査もかなり進んできた。

〔氷川ダム計画〕

- ダムおよび貯水池
 - ・ダムの位置：泉村大字下岳和小路
 - ・ダムの型式：コンクリート造り
 - ・ダムの高さ：五三呎
 - ・ダムの天端の長さ：一九〇呎
 - ・貯水池の面積：三五万平方呎
 - ・総貯水量：六三〇万立方呎
 - ・有効貯水量：五一〇万立方呎
- ダム工事費
 - ・約一億四千万円

■治水計画

ダム地点で毎秒四五〇トンの洪水量を二五〇ノ調整することにより、下流の鏡

町地点で千一〇〇ノの洪水量を九〇〇ノに減少させる。

〔現況〕

昭和三十六年度から県単独で調査を実施してきたが、四十年から建設省の国庫補助事業として実施することになった。四十年度は、千二〇〇万円の実施設計調査費で、ダム地点の詳細な地質調査（ボーリングおよび横坑）を実施し、四十一年度は、千五〇〇万円の予算でダムの調査と設計を完了する予定。

〔農業計画〕

球磨川の河口部に位置する八代は、水が豊富であるとともに鉄道、道路、海運等交通の要衝にもあたり、工業の立地条件にめぐまれているため、本県における工業の中心地となっている。

このため、県では、数年前から八代に県営の工業用水道を布設する計画の検討をつづけてきたが、たまたま、農林省が国営八代平野土地改良事業計画として、球磨川に「新造採掘」を設けて、農業用水を合口取水することになったので、工業用水道計画でも、この堰などを利用することになり昭和四十年七月、農林省と「共同事業に関する協定」を結んだ。

氷川下流域の水田地帯には、かんばつをうける地帯が散在しているため、現在の氷川がかりの全水田千五〇〇ノに対して用水補給を行なう計画で調査を進めており、また、丘陵地帯については、現地調査の結果、一応三二〇ノを対象として果樹かんがい計画をたて、四十一年度まで調査し、四十二年で計画をとりまとめるとする予定。

〔上水道計画〕
八代郡東陽村、宮原町、竜北村、鏡町、千丁村を対象区域として、給水人口

ところが農林省がこの堰を昭和四十年から着工することになったため、県の工業用水道計画も、負担金を支払う必要から四十年着工として計画をすすめ、すでに共同負担分として、四十年一億六千一〇〇万円を農林省に支払ってお

一日に四五万トンを給水

―八代工業用水道計画―
り、四十一年度は二億一千九〇〇万円を支払うこととしている。
八代工業用水道は、既存工場に給水する「内陸工業用水道」と臨海部に立地予定の新規工場に給水する「臨海工業用水道」の二つに区分し、前者は原水供給で

四万人の上水道計画を考えている。この計画については、四十一年度に経済企画庁の調査調整費で調査してもらおうよう事務折衝を進めている。

〔発電計画〕

発電計画については、三十八年ごろから県自体で検討してきたが、経済性の面で問題があるようである。しかしながら通産省でも、四十年に氷川発電計画の調査検討を実施し、近くその結果も公表されるので、それらの資料をもとに、さらに県としても十分検討していく。

四〇年度着工の起債単独事業とし、後者は浄水供給で四十一年度着工の国庫補助事業として計画している。

工業用水道の導水ルートは、事業費節減のため、八代平野農業水利事業の新水路ができると不用になる既存農業用水路（太田水路・昭和水路・郡築水路）を部分的に改修して利用し、これを新設水路で連結して内陸部の既存工場に給水するとともに、さらにこの先新設の導水管等により臨海地域の工場に導水浄化して給水する計画である。
一日当り給水計画は、内陸部約二〇万トン、臨海部約二五万トンを目標としている。



写真は整備された三太郎（佐敷太郎付近）